

紙管業
日本
日工

超硬質紙管を開発

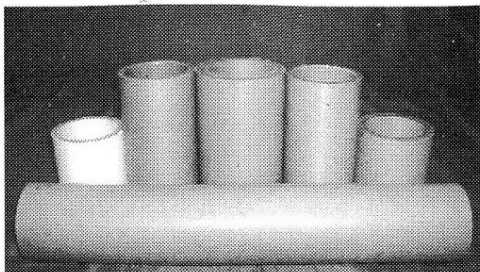
強度30%アップ実現

(大阪通信) 各種紙管製造の日本紙管工業(株)(大阪市旭区大宮一―一―三、竹本拓央社長)はこのほど、寸法安定性に優れた「超硬質紙管」(写真)を開発した。原材料や生産設備、新加工技術を駆使し、従来の紙管に比べ強度を約30%上げることになった。

現在フィルムメーカーは紙管の扁平耐圧強度やベンディング強度の不足でフィルムにシワが発生し、最後まで使用ができず余尺を巻いて対応しているという。超硬質紙管はこれら問題解消に対応する。

内径は三インチと六インチ、肉厚五〇〜一五ミリ、長さ最少一五〇〜最大二五〇センチ。そのほか紙管強度設計が可能。

特長は①扁平耐圧強度を向上させ紙管のたわみ、振れを抑制。フィルム巻取り時のシワを防ぎ、余尺の軽減に繋がる②同じ規格で現状の巻長さから一・五倍の巻量に対応可能③紙管厚の薄



肉化でコストダウンと環境配慮が可能④内面に防塵紙を使用し端面の加工で防塵機能を発揮する⑤特殊原紙使用で吸湿性を極めて低く抑え、水分変化量を抑制できる。